

全員参加、みんなで運動を楽しむ 子どもの育成

大分県大分市立大在小学校

全校児童数	1051名(男子553名 女子498名)		
全クラス数	31	教職員数	68名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	大在西小学校		
体育専科教員名		橋本 嘉明	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ①昨年度の期末アンケートにおいて「体育の授業でたくさん体を動かしている。」に肯定的な回答を示した児童は94%である。体力テストの質問用紙の項目「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」の項目でも肯定的回答は87%と比較的高い傾向にある。しかしながら、運動を普段からする児童としない児童の二極化もあり体育の授業にもそれが表れている。
- ②運動への意欲や取り組みは比較的高いものの、体力の現状については、昨年度の体力テストでC以上の評価の児童は78.2%、特に50m走と握力は大きく全国平均を下回っていた。日常での運動や遊びで継続的に力をつけていく必要がある。

2 取組の計画

- ・子どもが自ら活動したくなるような場の設定や授業の展開をし、休み時間の外遊びにつなげる。
- ・1校1実践を含め、年間を通して体力づくりの活動を仕組む。

Do：実践内容

1 授業改善

(1) 子どもが自ら活動したくなるような場の設定の授業展開をし、休み時間の外遊びにつなげる。

- ① 授業の最後に体育で使った専用の道具がなくても工夫すれば練習や似た遊びができることを伝える。
- ② 体育専科が定期的に授業公開を行い、授業力の向上を図る。
- ③ ICTを積極的に活用し、単元を通したワークシートで子どもが自ら課題を見つけ、解決方法を探しやすくする。

2 運動の日常化

- ① 毎月「体力名人」の目標設定を行い、全校で取り組む。
- ② 長期休暇には「お家で体育カード」や「なわとびカード」を配布し、家庭と連携して運動の日常化に取り組む。
- ③ ジャンピングボードの設置など、場の設定を行う。

●工夫したこと (&苦労した点)

①授業改善

体育用具の充実などの環境整備。運動が苦手な子どもでも取り組めるような場の設定。すぐにでも取り入れられるような簡単に効果的な授業の展開。

②運動の日常化

体育の時間や休み時間に取り組みやすい「体力名人」の目標設定。「お家で体育カード」での家庭でも取り組みやすい運動、ストレッチの提示。外遊びの奨励。体力アップチャレンジコーナーの設置

Check：取組の成果

① 授業改善

- ・体育館にポイントを掲示することで、子どもたちが自ら運動のやり方を押さえたり、ポイントの確認に使ったりできた。
- ・動画の撮影や作戦カードの作成など、ICTを活用し課題設定、解決に意欲的に取り組む。姿が増えてきた。
- ・全教職員で体育の授業改善に取り組むことで、子どもたちの満足度も上昇した。

② 運動の日常化

- ・休み時間にバトンスローや鉄棒など月毎の「体力名人」の項目に積極的に取り組む子どもが増えた。
- ・ストレッチや鉄棒などに家庭でも取り組む子どもが増えた。
- ・体力アップチャレンジコーナーでハンドグリップに取り組む子どもが増えた。

Action：今後の課題

- ① 1校1実践の取り組み内容の検討
 - ・学年に合わせたレベルの設定
- ② 学習内容の精選と教具及び教材の開発。
- ③ 小中連携を意識した学習内容の取り組み。
- ④ 新しく来た教職員でも取り組みやすいように体育用具の整理。
- ⑤家庭への「早寝・早起き・朝ごはん・朝の歯磨き」の意識改革と奨励の取り組み。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・運動の日常化と運動に対する愛好度の上昇。
- ・基礎体力の向上による、授業見学者の減少。

総括

- 子どもたちが自分の力に合わせた練習ができるような場を設定すれば、積極的に体を動かして授業に対する満足度も高くなることが分かった。
- 安全マットはその大きさと柔らかさから子どもたちの不安の軽減につながった。
- △短時間で場の設定ができるような工夫が必要。

実践内容

体力アップチャレンジコーナー



3 か所ある玄関にハンドグリップを設置した。各学年の先生に協力してもらって先生が 20 秒でにぎれた回数を掲示した。

成果

- ・先生たちの記録が目標になって、登下校時などの隙間の時間に取り組む子が多かった。

課題

- ・狭い場所、短時間の活動となるとすることが限られ、飽きが見られだした。

単元を通したワークシート

成果

- ・ポイントの動画や自身の活動の様子を見直すことで、動かし方を修正する姿が見られた。
- ・単元の目標と時間ごとの目標をいつでも見直せるので、子どもたちが課題意識をもって授業に取り組むことができた。

課題

- ・外での活用では子供たちが広域に広がるなどしたときに使わない iPad を素早く取り出せて、砂がかからないようにどこでどのように保管するかが課題であった。

ロイロノートで単元ごとのワークシートを作成し、各時間のめあてがいつでも確認できるようにした。ゲームのルールや運動のポイントをいつでも動画で見返せるようにした。単元の流れが1枚のシートにまとめることで前時を振り返り、その時間の個人のめあてを持てるようにした。